

岡山市は、市道の舗装に一般廃棄物焼却灰を溶かして固めた溶融スラグを10%混入したアスファルトの使用を義務付け、2006年度から本格実施する。瀬戸内海で採取が全面禁止

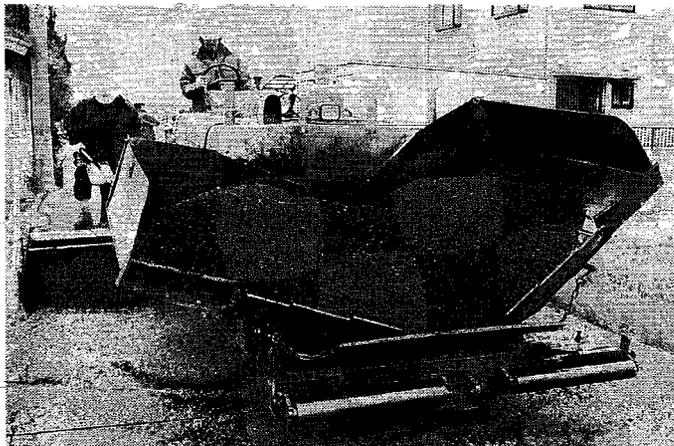
される海砂の代替材、資源リサイクル、最終処分場延命化の一石三鳥の効果を狙うもので、中国地方の自治体で初めて。

市道舗装に溶融スラグ

海砂代替 リサイクル 処分場延命

「一石三鳥」を期待

市は〇三年四月に同市沖元の市道を、通常のアスファルト、溶融スラグ混入10%、同20%の三パターンで約百坪ずつ舗装し、実用性や環境への影響を調査。路面の平坦性では国規格値（沈下二・四ミリ以下）に対し混入率10%、20%とも一



溶融スラグが10%入ったアスファルトが敷かれる岡山市の市道補修工事＝同市藤田

スーム

溶融スラグ 廃棄物の焼却灰を二五〇度以上の高温で溶融固化したガラス状の物質。焼却灰は埋め立て処分しなければならぬが、溶融化することで無害化され、埋め立ての必要がなくなる。ことから、処分場の負荷が軽減される。

市は試験結果から10%混入を決め、市道舗装で施工業者が使わねばならない指定資材に規定した。県が、アスファルトに骨材として交ぜる小石や砂などの代わりに道路補修などで生じた廃アスファルトの40%混入を義務付けており、このうち10%部分を溶融スラグに置き替える。

混入はアスファルトメーカーが担当。市の東部クリーンセンター（同市西大寺新地）で作る砕石状の溶融スラグをトン当たり百円で買い取り、溶融スラグを交ぜたアスファルトを製造、舗装業者に販売する。価格は従来のアスファルトと同

額。市は焼却灰の埋め立て処分量を減らすため、〇一年度から同センターなどのごみ焼却施設で溶融スラグ化を推進。〇六年二月までに三万三千トンを埋め戻しや民間販売などで二万六千三百トンを利用。残る六千七百トが山上最終処分場（同市山上）にストックされている。

市は、溶融スラグが年間一万吨程度生じる中、10%混入で三千トの使用を見込んでおり、環境施設課は「混入化でストック

量の増加も抑えられ」という。さらに、骨材の砂のうち、海砂は海底環境を守るため岡山県で二〇〇三年に採取が中止、今年四月末の愛媛県を最後に瀬戸内海全域で禁止される。岡山県内では九州地方のものなどが使われており、県アスファルト合材協会は「海砂使用はトン当たり百坪程度減らせる」としている。

（青野高陽）